



鶴からの手紙

真鶴中学校だより 第二四一号

2022.9.5
責任者
市川 麻美

「行動制限のない夏」を終えて…

八月二十九日にスタートした二学期。体育館で生徒の皆さんの元気な顔を見て、本当に安心しました。保護者の皆様をはじめ地域の皆様に深く感謝いたします。

夏休み中、自習室(図書室)については、のべ六十名が利用し、教科相談日も活用されました。定期テストに向けて『マナビアワー』も参加・活用してください。

「行動制限のない夏」でしたが、皆さんはどう過ごしたのでしょうか？楽しく過ごせていたらよいと思います。ただし、少しでも周りの人や状況を考えて行動できていたか、振り返ってみてください。自分を大事に、そして周りを考える人であってほしいと思います。

東北出身の宮澤賢治の有名な詩『雨ニモマケズ』は彼が病床で手帳に書いたものだそうです。「雨ニモマケズ／＼風ニモマケズ／＼雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ／＼丈夫

ナカラダヲモチ…と、自分がそうなりたいたいという、強い思いが綴られています。当時の日常的な貧困や疾病、冷害や干ばつ等度重なる天候不順にも言及されています。この作品で東北地方の実情が世に知らされた面もあるようです。

これから、台風など風水害の多い季節です。「雨ニモマケズ」の心構えて、自分とその周りの安心・安全に備えたいものです。オミクロン株による感染拡大は、なかなかおさまりませんが、二学期もできる限り通常の活動を(あくまでも慎重に)進めていきたいと考えております。生徒・保護者・地域の皆様一丸となってどうぞよろしく願っています。

「1」の夏の活躍」各部活動の頑張り

中体連の大会は七月三日を皮切りにスタートしました。本校からは、常設部のサッカー、女子バレーボール、女子バスケットボールが参加しました。また、特設部として、柔道、水泳、陸上にも参加しました。そして、文化部も活発に活動していました。

それぞれが、持てる力を発揮し、記憶に残る活躍をしていました。常設部からの想いを紹介します。

「サッカー部」

僕にとって三年間の部活動生活はとても充実したものでした。時には悔しい思い、辛い思いをたくさんしました。ですが、楽しいことの方が多かったと思います。それは指導して下さる先生を始め、日々一緒に努力する仲間がいて、家族の支えなどがあつたからだだと思います。その支えてくれる人の存在の大きさを実感しました。

三年間で一番に残っていることは、最後の夏の大会です。一回戦は、接戦の末PK戦で勝利しました。勝利した瞬間、僕は喜びが爆発しました。その勝利は、先生方、水などを準備して支えてくれる一年生、試合に出て一緒にボールを追ってくれた二、三年生のみんなのおかげなんだ勝利だと思っています。続く二、三試合は負けてしまいました。とてもくやしかったです。でも、みんなが全力を出し切った結果がこの結果だと思っているので、悔い



はないです。

これからも支えてくれる人の存在の大きさ、試合に勝った時の嬉しい気持ち、悔しい気持ちを忘れずにこれからも生活してまいります。みなさん本当にありがとうございました。

(三年一組 鈴木 琥珀)

「女子バスケットボール部」

七月九、十日に行われた総合体育大会に参加しました。三年生がいないので、二年生を中心とし、試合に臨みました。九日は城南中学校との試合でした。私たちにとって、昨年の夏、新チームになつてからのくらい成長できているか確認することができた試合でした。新チームになつてすぐの城南中学校との試合では、二点しか奪うことができませんでした。しかし、この大会では、負けという結果でしたが、十三点奪うことができ、昨年から成長したことを実感しました。そのなかで、新たな学びや改善点を見つけることができました。

十日は城南中学校との試合で、念願の公式試合初勝利を収めることができました。勝利という新しい経験をすることができ、自信にも繋がりました。



十日は城南中学校との試合で、念願の公式試合初勝利を収めることができました。勝利という新しい経験をすることができ、自信にも繋がりました。

この二日間の試合を通して身につけたことを、今後の試合に向け練習し、頑張ったことが良い結果として残るようしていきたいと思います。

(二年一組 松本 菜楓)
「女子バレーボール部」



私たち三年生にとって最後の大会となった夏の大会。「想いを大切に」という気持ちで臨んだ夏は、このチームで一試合でも多くバレーをしたい、相手

がどこだろうと全力でプレーをして結果を残したいというみんなの「想い」が、県大会出場という結果に繋がったと思います。
一年生の時、入部してから新型コロナウイルスの影響で、なかなか思うように活動ができませんがありました。そんな中でも、私たちはこの二年間色々な壁を乗り越えて、本当に頑張れたと思います。私もキャプテンという重要な立場で、正直不安なこと、苦労したこと、もたくさんありました。でも、バレー部のみんなが支えてくれ、フォローし合うことで不安も消えて、私はキャプテンとしてやってこれました。バレー部のみんな

には感謝しかありません。ずっと目標にしていた県西大会出場を果たし、公式戦や練習試合でなかなか勝てなかったチームが県大会に出場できたのは、みんなの「想い」と努力の賜物だと思います。これで私たちは引退です。今度は二年生が中心に、後輩を引っ張っていく番です。代々受け継がれるあのユニフォームで、真鶴中学校としてまた、県大会に行かれることを願っています。

(三年一組 春原 穂高)
「美術部」

夏の活動は、コンクールや学習活動発表会に向けた個人制作です。七月には、中川一政美術館に行きました。学芸員さんから、中川一政さんの絵の説明を聞きました。そこで、多数の風景画を観ました。

学校での活動は、毎回まず、一時間、学習の時間があり、夏休みの宿題なども頑張りました。制作としては、真鶴絵

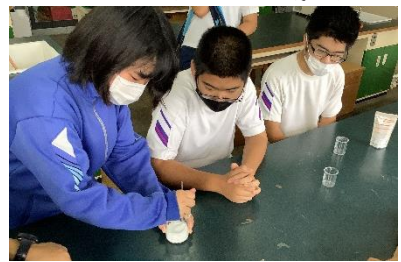


(三年四組 青木 類)

「科学部」

私たちの夏休み中の主な活動を三つ紹介します。

まずは、三年生の個人作品です。作った作品は不思議な筒や踊るピンポン玉、ヨーヨーなどを身近な物で作りました。



どの作品も何度も試行錯誤した結果、素晴らしい作品ができて、三年生のみならずとても満足できました。

次に、二年生のポンポン船です。この作品は、夏休み前から取り組んでいました。夏休み中も船体のバランスが合わなかったり、まっすぐ進まなかったりして、色々な改善点が見つかりました。でも、二年生は諦めないで取り組み、立派なポンポン船を作ろうとしています。

最後は、全学年が協力したペットボトルロケットです。この作品は、三年生がたくさんのロケットの本体や発射台などをつくり、二、三年生で燃料のクエン酸と重曹を混ぜた物をオブラートに包みました。外に出て実験をしてみたら、ロケットを飛ばすことができ、大成功でした。

どの作品を作る時にも、たくさんの試行錯誤をしました。一時期、作るこ

を諦めようとしたこともあったけど、みんなが頑張っていたので、自分も頑張るようになりました。私はどんなに辛い事があっても、頑張ればいつかは報われると知りました。

(三年二組 藤田 琉聖)
「吹奏楽部」

私たちは、少ない人数でコンクールに挑みました。昨年の十二月頃から七月まで、一人ひとりがコツコツ一生懸命に頑張ってきました。練習している期間は、たまに思い悩む時期などもありました。でも、コンクールを終えて、金賞という素敵な賞をいただくことができました。今まで一緒に頑張ってきたメンバーと取れて、本当に誇らしく嬉しかったです。ぜひいっしょに頑張りましょう。

これから、学習活動発表会や音楽会などにも参加します。引退する最後まで色々なイベントに出て、このメンバーでたくさん演奏できることがすごく嬉しいです。

引退する日が徐々に近づいていますが、最後に後悔が残らないようにあと少し頑張りたいです。

(三年一組 高橋 七星)

